

平成25年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	徳島県立池田高等学校（全日制）
校長氏名	三好章文
所在地	徳島県三好市池田町ウエノ 2 8 3 4
電話番号	0883-72-1280
参考URL	http://www.ikedahs.tokushima-ec.ed.jp

2 研究課題

(1) 研究主題

地域とともに育む道徳教育 ―心身の調和のとれた夢ある人材の育成―

(2) 設定理由

本校は、県西の伝統校として昨年創立90周年を迎えた。生徒の8割以上が地元の三好郡・市から通学しており、地域との関係性が非常に強い。少子高齢・過疎化が進む三好地域の中核高校として、将来にわたって地域の一員として活躍できる人材を育成する必要性を感じている。生徒に、地域の文化・歴史や自然をとおして地域の伝統の良さを理解させ、地域の中での自己の役割を自覚させることで、自らの将来のあり方を考える力を養い、地域との様々な交流をとおして感謝の気持ちを育むとともに、地域社会に貢献できる人材を育成していきたいと考えている。

また、生徒は素朴で真面目であるが、自らの考えを適切に表現する力が不足している感があり、自己実現に対する意識も低い傾向がある。生徒たちに自らの在り方生き方について考えさせ、自他を尊重する思いやりの心や規範意識を育むとともに、職業や働くことの意義を理解し、地域社会の一員としての自己の将来を見つめさせる必要があると考えている。

本校では、以上のような課題を道徳教育の観点から捉え、今回の研究主題を設定した。

3 研究の概要及び特色

(概 要)

ねらいを「地域との様々な交流を通して感謝の気持ちを育むとともに地域社会に貢献できる人材を育成する。」「職業や働くことの意義を理解し、自己実現に対する意識を高め、人としての在り方生き方について考えさせる。」とし、講演会や地域の地域に出かけて生徒が主体的に活動できることを積極的に取り入れるよう工夫した。

(特 色)

研究テーマの三つの柱を「自己を見つめる」、「地域と向き合う」、「将来を見つめる」とし、本校の特色ある活動をまとめることにした。

「自己を見つめる」では、年間を通しての活動として、朝の読書活動やあいさつ運動が挙げられる。また、月に1度の人権の日の活動や人権意見発表会、人権教育講演会、人権劇などの人権教育活動が含まれる。このような機会を通して、生徒自身が身近な事柄を通して自己の内面を見つめ、自他を尊重する気持ちを育てることができた。

「地域と向き合う」では、交通安全キャンペーン、環境美化活動、サイエンス教室や



朝の読書活動

絵本の読み聞かせ、東雲祭（文化祭）での防災展、地域との連携による防災活動などを通して、地域の人々との関わりを体験することで他者に対する感謝の気持ちや地域の中での自己の役割を自覚し、どのように地域に貢献できるかを考える機会を持つことができた。



環境美化活動

「将来を見つめる」では、道徳教育講演会、国際理解ワークショップ、国際協力出前講座、地域課題研究発表会、進路・キャリアガイダンスなどを通して、職業や働くことの意義について理解し、自己実現に対する意識や規範意識を高める機会を設定している。人生の先輩方の様々な体験・講話を聞くことにより、人としての生き方や在り方にふれ、自らの在り方生き方を考察することができた。



道徳教育講演会



国際協力出前講座



地域課題研究発表会

4 研究の成果

(1) 研究のテーマ「自己を見つめる」について

1年間を通しての活動である朝の読書活動では、道徳教育実践研究事業から学級文庫用の図書を購入し、生徒が活用した。

月に1度の人権の日には、ハンセン病などの感染症による偏見、言葉の力の強さやメールによる誹謗中傷・無関心についてなど、身近にある様々なテーマで人権を尊重する態度を育ててきた。



10月に実施した人権意見発表会では、自分たちが感じる差別や偏見について発表することができ、自分と等身大の生徒から発せられる言葉を真摯に受け止め、誠実な対応ができる態度や公共の精神などを養うことができた。

本年度は、「ハンセン病」をテーマとした人権劇と人権教育講演会を11月に実施し、無知からの偏見や差別について学ぶことができた。また、「ふるさと」の大切さも知ることができたように感じる。これらの活動を通して、郷土愛・他者との共生・異なるものへの寛容・生命や他人を思いやる心が育まれたと考える。

また、生徒会を中心とした校門でのあいさつ運動を通して、あいさつの意義や大切さを学び、生徒自身の規範意識を育てることができたように思う。



人権意見発表会



人権劇



あいさつ運動

(2) 研究のテーマ「地域と向き合う」について

4月の交通安全キャンペーンに参加し、地域の方々と一緒に交通安全を訴えることができた。

夏休みなどには地域の公民館や幼稚園と連携してサイエンス教室や絵本の読み聞かせなどのボランティア活動にも積極的に参加した。ボランティア活動に参加することで様々な人と交流することができ、生徒自身の人間的な幅が広がったように思われる。また、これをきっかけとして将来の自分の進路の在り方についても考えることができたように思われる。



交通安全キャンペーン



東雲祭・防災展



地域と連携した防災訓練

12月の環境美化活動では、校区内の駅や公園の清掃活動を実施した。清掃したところが美しくなることで自分の気持ちも清められたような気持ちになったようである。また、地域の方からは「きれいにしてくれてありがとう。」などの言葉をいただき、やってよかったと感じることができ、社会貢献の精神や郷土愛について考えることができたようであった。

本年度は、学校防災ボランティア推進事業の一環として、文化祭（東雲祭）での防災展に西部県民局の人にも参加してもらったり、地域の婦人会、自主防災会、福祉協議会、三好市社協、防災ネットワーク、PTAなどの協力のもと、災害時の炊き出し体験や防災判断ゲームなどを1月に実施した。

その際、防災ずきん用の布などを購入し、池田高校防災クラブの生徒たちが防災ずきんを縫って地域の幼稚園に寄贈した。他にも災害時用の折りたたみの担架やバケツなどを購入し、池田高校が災害時の緊急避難場所として活動できるよう準備に協力した。生徒たちは、地元の人々と協力することで、緊急災害時にも自分たちのできることがいろいろあることに気付き、いざというときに行動のできるように心の準備ができ、自己肯定感の育成もできたように思われる。



防災ずきんの贈呈

これらの地域の地域と交流を深めることで、社会全体の結びつきを肌で感じ、他者との共生の必要性を実感できたのではないかと考える。

(3) 研究のテーマ「将来を見つめる」について

12月に道徳教育講演会を実施し、「結局は感謝の心」と題して地元にはゆかりのある箸蔵寺の住職佐藤盛仁氏に講演していただいた。「働く＝お金」ではなく「働く＝生きる」ことで人々が分かち合い協力することだと教えてくださった。生徒たちは「働く」ということは世の中に対し自分のできることを返していくことだと知り深く感銘を受けており、講演を聴いてのアンケートにはほとんどの生徒が自分の意識に変化があったと答えている。

1年生対象に行った11月の国際理解ガイダンスでは、トンガ、ボリビア、中国、ペルー、ポルトガルの出身者を招き、各国の民族衣装、踊り、音楽、楽器などを実物や写真を使って紹介してもらい、人との関わりの中で感動したことや困ったことなども話していただいた。生徒たちは事前に学習したことについて、クイズ形式にして紹介をしてくれたことに大変盛り上がりを見せ、活発な意見交換ができていた。そして、それぞれの国を身近に感じることができたようであった。



国際理解ガイダンス

2年生対象には1月に国際協力出前講座を実施し、JICAでの活動を通して感じたことや体験談を「ヨルダンで生きる人々―パレスチナ難民の子どもたちとの2年間を振り返って―」と題して、森本美鶴さんにお話していただいた。ヨルダンやパレスチナの現状を聴いて、遠い国での出来事として受け止めていたが実は自分たちにとっては身近な問題であることを認識し、解決に向けて協力しなければならない問題だと気付いたようであった。また、衛生面や教育面でも、自分たちがいかに恵まれた環境にあるかがわかり、自分たちのできることは何か、と考え、模索することができたようであった。

探究科では、地域の方々に協力いただいて、様々なテーマで研究を行い、地域の知的財産の継承に努めている。2月に実施した地域課題研究発表会では、その成果を発表し、地域の伝統や自然の素晴らしさを改めて感じることができたようであった。

年間を通じて、4回実施された進路・キャリアガイダンスや進路講演会は、自己の将来の夢や職業観を見つめなおす良い機会になったと思われる。参加した生徒は、「仕事の内容を具体的に知ることができて良かった。」と自己の将来について具体的に考えを膨らますことができたようであった。



進路・キャリアガイダンス

このように講演会等を通して、人としての在り方生き方にふれ、自らの在り方生き方について考察を深め、自尊心や自己実現する力を育み、将来を切り拓く力を持ち、社会で自立できる心を養うことができたと思われる。

今回の道徳教育実践研究事業の取り組みの成果としては、奉仕活動などの様々な体験を通して地域の人や文化とふれあい、郷土愛や公共の精神を養うことができたと言える。また、講演会やワークショップを通して様々な人の生き方や在り方にふれ、自らの在り方や生き方について深く考察することができたように思う。

7月と2月に次項のような生徒アンケートを実施した。(アンケート内容については5ページ) アンケートにおいては、道徳教育の四つの視点、

- (1) 主として自分自身に関すること
- (2) 主として他の人とのかかわりに関すること
- (3) 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- (4) 主として集団や社会とのかかわりに関すること

を重視し、(1)についてはアンケートの1, 2, 4を(2)についてはアンケート5, 8, 10を(3)についてはアンケート6を(4)についてはアンケートの3, 7, 9があてはまるようにした。

生徒アンケートの結果は6ページ・7ページにある。

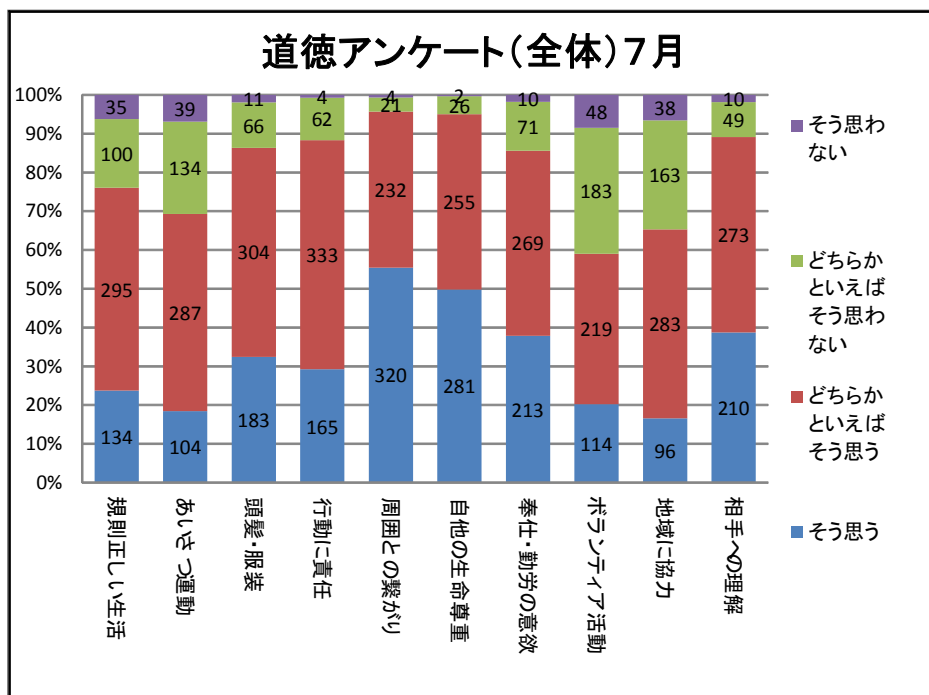
生徒生活意識調査

第()学年 男 ・ 女

No.	質問事項(該当するところに○をつけてください)	そう思う(で	(どちらかと	(どちらかと	そう思わな
		まっている)	いえばでき	いえばでき	い(できてい
		ている) ど	ていない)	ない)	
		ちらかとい	どちらかと		
		えばそう思	いえばそう		
		う	思わない		
1	規則正しい生活習慣を身につけ、より良い生活を心がけている。				
2	朝の読書活動やあいさつ運動に積極的に関わることができる。				
3	頭髪・服装・公共の場所でのマナーについて、他人に好感が持たれるように心がけている。				
4	言葉遣いや礼儀など自分自身の行動に責任を持っている。				
5	相手の立場や気持ちを考え、周囲の人とのつながりを大切にしたいと思っている。				
6	自他の生命の尊さや自然の大切さを認識し、その気持ちを大切にしたいと思っている。				
7	集団(家族・学校・部活・地域など)の一員として、奉仕の心や勤労意欲を伸ばしたいと思っている。				
8	ボランティア活動に興味・関心があり、参加したいと思っている。				
9	郷土や地域に対する理解を深め、誇りを持って、地域と協力していきたいと思っている。				
10	共同作業や話し合いを通して、相手の意見や考えを理解する力を伸ばしたいと思っている。				

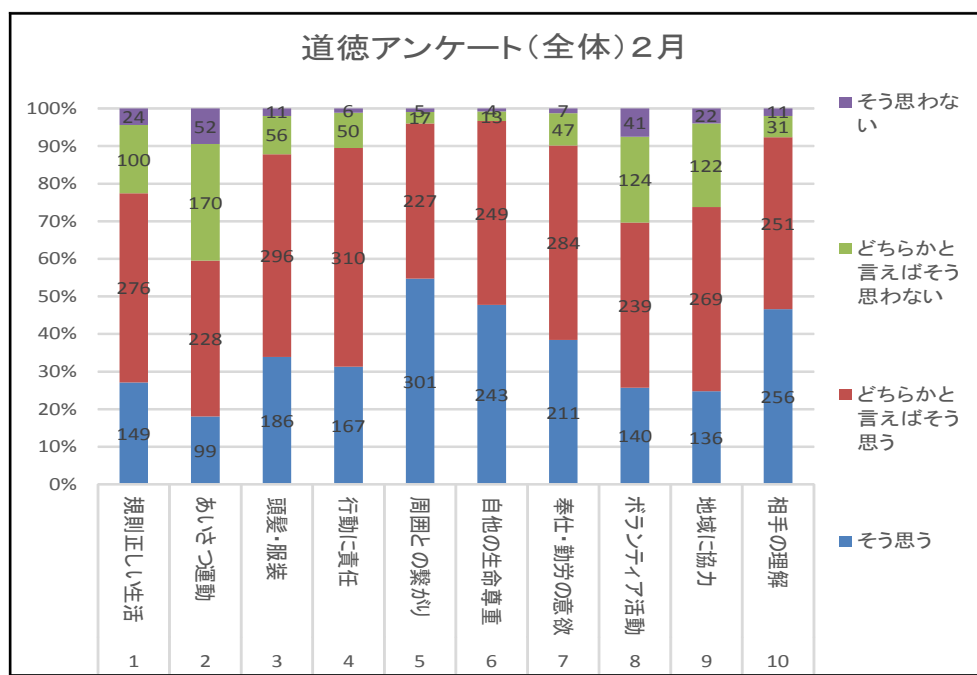
○7月のアンケート結果

項目	内容	人数				%	肯定的評価	否定的評価			
		4 そう思う	3 どちらかと 言えばそう 思う	2 どちらか と言えば そう思わ ない	1 そう思わ ない						
1	規則正しい生活	134	295	100	35	23.8	52.3	17.7	6.2	76.1	23.9
2	あいさつ運動	104	287	134	39	18.4	50.9	23.8	6.9	69.3	30.7
3	頭髪・服装	183	304	66	11	32.4	53.9	11.7	2.0	86.3	13.7
4	行動に責任	165	333	62	4	29.3	59.0	11.0	0.7	88.3	11.7
5	周囲との繋がり	320	232	21	4	55.5	40.2	3.6	0.7	95.7	4.3
6	自他の生命尊重	281	255	26	2	49.8	45.2	4.6	0.4	95.0	5.0
7	奉仕・勤労の意欲	213	269	71	10	37.8	47.8	12.6	1.8	85.6	14.4
8	ボランティア活動	114	219	183	48	20.2	38.8	32.4	8.5	59.0	41.0
9	地域に協力	96	283	163	38	16.6	48.8	28.1	6.6	65.3	34.7
10	相手への理解	210	273	49	10	38.7	50.4	9.0	1.8	89.1	10.9



○ 2月のアンケート結果

項目	内容	%				肯定的評価	否定的評価				
		4	3	2	1						
		4 そう思う	3 どちらかと 言えばそう 思う	2 どちらかと 言えばそう 思わない	1 そう思わ ない						
1	規則正しい生活	149	276	100	24	27.1	50.3	18.2	4.4	77.4	22.6
2	あいさつ運動	99	228	170	52	18.0	41.5	31.0	9.5	59.6	40.4
3	頭髪・服装	186	296	56	11	33.9	53.9	10.2	2.0	87.8	12.2
4	行動に責任	167	310	50	6	31.3	58.2	9.4	1.1	89.5	10.5
5	周囲との繋がり	301	227	17	5	54.7	41.3	3.1	0.9	96.0	4.0
6	自他の生命尊重	243	249	13	4	47.7	48.9	2.6	0.8	96.7	3.3
7	奉仕・勤労の意欲	211	284	47	7	38.4	51.7	8.6	1.3	90.2	9.8
8	ボランティア活動	140	239	124	41	25.7	43.9	22.8	7.5	69.7	30.3
9	地域に協力	136	269	122	22	24.8	49.0	22.2	4.0	73.8	26.2
10	相手の理解	256	251	31	11	46.6	45.7	5.6	2.0	92.3	7.7



生徒アンケートの結果としては、本校の生徒の特徴として、道德教育の四つの視点では、特に注目すべきところは見られなかった。しかし、気になる点としては、項目8の「ボランティア活動に興味・関心があり、参加したいと思っている」や項目9の「郷土や地域に対する理解を深め、誇りを持って、地域と協力したいと思っている」に対しての肯定的意見が全体的に低いことがあげられる。人と協力して何かを成し遂げることに對しての苦手意識があるようにも考えられる。また、徳島県教育委員会が実施した教職員を対象とした生徒の道德性に関するアンケート（5ページ）では、「生徒は物事を最後までやり遂げて満足感をもっている」に対して「どちらかと言えば当てはまらない」という意見が22%であった。今後は、生徒が主体になって充実感や満足感が得られる活動を増やすことが望ましいと考える。

さらに気になる点として、項目2の「朝の読書活動やあいさつ運動に積極的に関わることができている」に対しての肯定的意見が7月から2月の方が低下したことである。朝の読書活動については、教員の取り組み方に違いがあり、あいさつについても運動部の生徒を中心としたさわやかで元気なあいさつは本校の生徒らしさを表しているが、あいさつができていない生徒もいるのが現状である。朝の読書活動やあいさつをすることは、自己を見つめる時間を持ち、集中力を養ったり、自己肯定感の上昇につながるものと考えられるので、全教員が意識の統一をし、積極的に取り組むべき課題と考える。

また、7月のアンケート結果では肯定的意見が最も低かった項目8の「ボランティア活動に興味・関心があり、参加したいと思っている」への取り組みについては、環境美化活動や地域の方との連携による防災訓練などのさまざまな奉仕活動を通して生徒自身が他者との共生や集団の中で自己の役割などについての意義を見いだすことができたようである。肯定的意見が10ポイントほど上昇した。注目すべき点として、2月のアンケート結果で肯定的意見を持っている生徒は1年生で55.4%、2年生で67.0%、3年生で80.2%で学年が上がるほど肯定感が上昇している。これは、生徒が社会的に自立を意識することによって、自己中心的な考えから周囲との関わりや集団での役割などを考え、実践することで社会貢献・奉仕の精神を自然と身につけていったものと考えられる。その他の項目もわずかではあるが7月より2月の方が肯定的意見の上昇が見られた。

以上のことから、1年間という短い期間ではあるが、目標を持って道德教育に取り組むことが大切であるということを感じた。今後もこのような取り組みを続けることが生徒の規範意識や自己肯定感を高めることにつながると考える。

5 今後の課題

生徒の道德性に関するアンケートの「生徒は難しいことにも失敗を恐れずに挑戦している」や「生徒は将来の目標ややりたい職業がある」に対して、多くの教員が「どちらかと言えば当てはまらない」と回答しており、県西部という地域性も一因と考えられるが、教職員が協力して解決すべき池田高校の今後の検討課題と言える。

一般論ではあるが、生徒の倫理観や規範意識を高めるためには、学校だけではなく、家庭や地域との連携が不可欠であり、社会全体で道德教育に取り組まなければならない。まずは学校と地域と家庭の連携を一層深める必要がある。地域との連携による防災訓練では、地域の参加者から「年に一回くらいはこんな活動を取り入れてほしい。」との意見もあった。今後もこのような活動を継続する必要があると感じた。

また、生徒が道德的実践ができるためには、内面的資質である道德的実践力を伸ばす必要があるため、教員は生徒が主体的に活動できる教材を工夫したり、小・中と連携した道德教育を意識した活動を積極的に取り入れる必要がある。それとともに、教職員の意識の高揚を図るための研修なども積極的に取り入れる必要がある。また、年間学習指導計画の作成が義務化されており、今後も道德教育が重視されると考えられるので、各校に道德教育について専門性のある教員の配置が必要であると感じている。